

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

寒さゆえ孤独ゆえなる味わいすぢみほうれん草もリルケも

「ロソジエネ」という物語に身を寄せて語る気はない俺は自分を 国立市 佐藤 建

「お休みは土日ですよ」髪を切り放つ言葉に今日も傷付く 川崎市 水 面

戦争を織り込み済みの日常が戦場以外の世界で進む 倉敷市 中路 修平

「言判」使用憚る言葉だが令状判事にはぶつけたい 京都市 寺西 和史

裏金のこと持ち出さざるを身構える税申告の税務職員 西海市 まえだ いっき

老人が文句をつける「現代」は老人我らがつくりきたりぬ 東京 野上 卓

酒蔵の漆喰の壁白土に這ふ鶯の葉の赤が彩る 秦野市 諸星 一枝

米川千嘉子 選

こんな人あんな人にも投票をしていた愚かなあなたと私 長野市 宮崎 雄

国会質疑の時間も費やされる。そういう国民の代表を選んだ私たちの「愚か」さ。

「評」日常のかけがえのなさを痛感させるニュースが多い。上旬に実感がある。

避難所の母に雑煮を食べさせることもできずにいるもどかしさ さいたま市 望月 裕子

本当のことが言えない時もあるそとドーナツに耳打ちする日 松山市 丘の紫陽花

恵方巻は伝統なるや豆撒きて排除するよりまじとおもへど 武蔵野市 八田 絵砂

無農薬で育つ野菜はくわすか守り通しぬ小さな畑 奈良市 梅本 幸子

昔は目今はマスクを見る癖が付いてしまったパンデミックで 倉敷市 中路 修平

二回目は後が大変だったよと友は離婚をワクチンのごとく 松原市 たりりずむ

見えている物を探して丸一日毎日違うものを探して 日南市 宮田 隆雄

バスガールを妻にせし友よ日当たりの良き小庭にてさまざまな花 鹿嶋市 加津牟根夫

加藤 治郎 選

五丁目は雪らしいけど二丁目は雪降ってないまだぎりぎり 登別市 松木 秀

「評」私は二丁目に居る。雪はこれからだろう。ぎりぎりなのは心が生活か。4句目までが短歌的(吉本隆明)になっている。

「評」小市民として生きる。社会の仕組みに順応する。が、心は伸びたカップ麺だ。

贈られた父の香水枕へと夢でも母に会えないように 東京 藤沢 静二

触れたなら痛みを走る場所がありきみに何度もそこを押させる 所沢市 神田 望

露天風呂へと 東京 石川 真琴

お互いにひとりであれよ祈るだけショートケーキを口に運んだ 横須賀市 森久保りりか

Stricide Live デイリー配信中いいね、コメント、お願ひします!! 宮古島市 塩見 伴

人間の絶えた廃墟の一室にくりかえされる相掛かり戦 春日部市 宮代 康志

交代で運転をしてどこまでも楽しい旅を続けていこう 川崎市 船山 登

現実ならこうなるはずだでもそうはならない 横浜市 友常 甘酢

水原 紫苑 選

手をなくすための契約を結ぶ 獣は美しいと知りながら 東京 小亀 令子

「評」上の句と下の句の間の飛躍に一首の魅力がある。「獣」の美しさはそれゆえに生きる。

性自認雌に傾く初雪が春の雪なる東京にありて 相模原市 高田 祥聖

「評」春の雪のはかなく不安定な表象が初句の微妙な感覚につながる。

汁にふくらむ高野豆腐よ生も死も恥すかしさから逃れられない 千葉市 芍 葉

最後まで鉄塔だけが見ていたと人を殺めし人は言つたり 宮津市 野 ばら

自撮り棒を空に掲げてマゼランの母星に送る「タスケハマタカ」 所沢市 里見 脩一

置き時計秒針の音が海外のロックバラードの裏拍刻む 吹田市 崎島スジオ

十匹は仲間がいるという点でゴキブリにさえ負けているおれ ふじみ野市 雨雨雨雨

新しい本に紅茶を溢したら新雪に初めての足跡 堺市 初夏みどり

引きこもりだった頃にと話した時まなうらにひかるカーテン 堺市 石井 藍

蝶という虫は一度も詠まれずに万葉集の中にゆらめく 古賀市 砂山ふらり

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部。短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます